



前進座京都初春特別公演

河竹黙阿弥 作

さかなやせうごろう

# 魚屋宗五郎

新皿屋舗月雨暈

序幕——奥庭弁天堂の場  
二幕目——芝片門前魚屋内の場

妹の死を知り、固く絶っていたお酒を、ふたたび口にしてゆくと……  
芸とドラマが渾然一体。前進座世話物の代表作。

河竹黙阿弥作『新皿屋舗月雨暈』

から二場を独立させた作品。「弁天堂の場」と「魚屋内の場」で構成するのが前進座上演の特徴。

前進座では中村翫右衛門、梅之助が得意とし、今日まで上演八八〇回を数えます。酒に酔ってゆく様を三味線にのせて描写する芸、振り回される家族のおかしみとともに、武家の理不尽な仕打ちで妹を喪った庶民の破れんばかりの怒り……芸とドラマが渾然一体、藤川矢之輔勤める宗五郎と家族の息の合ったチームプレーで酔わせます。

【あらすじ】

芝片門前の魚屋の宗五郎一家は、妹おつたを旗本の磯部主計介の元へ奉公に上げていた。磯部の愛妾となったおつたに家臣の典蔵も横恋慕。叶わぬ恋の逆恨みに、あらぬ不義密通をでっち上げる。これを信じ込んだ磯部は、逆上しておつたを手討ちにしてしまふ。事の真相を知らされぬまま、嘆き悲しむ宗五郎ら家の者たち。

そこへ、おつたに親しく仕えた腰元おながが訪ねて来る。お武家の理不尽な仕打ちにより死に絶えた妹おつた……宗五郎は、あまりの口惜しさに、絶っていた酒を二杯三杯と重ねてしまふ。飲むほどに生来の酒乱癖があらわれて、回りの者たちは困り出す。酔い切った宗五郎の中に抑えきれない憤怒が沸き上がり、磯部の屋敷へ……このあと原作では主計介が宗五郎に詫び、酔いの冷めた宗五郎は恐縮しますが、前進座ではこの場は上演致しません。

舞踊

# 七福神宝之入船

長唄連中

しちふくじんたからのいりふね

皆さまおなじみの、弁天・大黒・布袋に寿老人、恵比寿・毘沙門・福祿寿、七人の神様が宝船に乗って、初春のお祝いを申し上げるところへ、あらわれ出たる神様は……。さてこの一年の先行きはどうかでしょうか。

初春公演にふさわしい、おめでたい舞踊の一幕でございます。



2024年 1月6日(土) ~ 14日(日)

京都駅ビル内

京都劇場

	1/6 (土)	1/7 (日)	1/8 (月・祝)	1/9 (火)	1/10 (水)	1/11 (木)	1/12 (金)	1/13 (土)	1/14 (日)
午前の部	貸切	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
午後の部	15:30	貸切	貸切	貸切	貸切	貸切	貸切	15:30*	

★アフターイベント開催!

《ご観劇料金(税込)》

1等席10,000円 / 2等席5,000円 / 3等席3,000円

\*特典付きチケットあり 詳しくは前進座ウェブサイトをご覧ください

お申込み 劇団前進座 関西事務所

TEL: 06-6212-9600 (平日: 午前10時~午後5時)

前進座ウェブサイト <http://www.zenshinza.com/>

〒542-0077 大阪市中央区道頓堀1丁目東5-7 劇団前進座道頓堀ビル

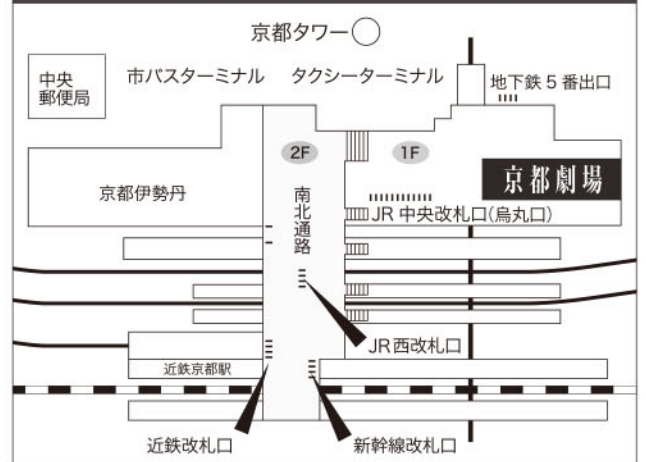
プレイガイド チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード521-291)



公演情報・チケットのお申し込み

前売開始 12月5日(火)10時より

交通機関から京都劇場へのご案内



京都駅中央改札口(烏丸口)から徒歩1分

新幹線JR・近鉄京都線・京都市営地下鉄各線京都駅下車徒歩約4分